

がんと共に生きようと覚悟を決めた人の方が、わりとよく生きられる

樋野興夫著

病気は人生の夏休みより

がんと共に生きて「天寿」と思われるころにがんで亡くなる——私の考える「天寿がん」です。

もちろんはじめから「がんと共に生きよう」とするのはもったいないこと。治せるがんは治した方がいい。根治できるのならそれに越したことはありません。

ただし、治療の難しいがんだとしたら、そのときはがんとの「共存」も1つの選択肢になります。

「天寿がん」を理想とし、がんとの共存をはかり、その成長を遅らせる生活や治療を続けていくのです。

共存とは、あっては困るものでも、その存在だけは認めるという関係です。親しくしたり、嫌ったりしない。ただそこにあるものとして扱う。

がんの存在を否定して生きるよりも「共存して生きる」と覚悟を決めた人の方がわりとよく生きられるようです。

